

下関市立大学広報



海峡の英知。未来へ そして世界へ。

公立大学法人

下関市立大学

Shimonoseki City University

2010年7月1日 第61号

発行:下関市立大学広報委員会

〒751-8510 下関市大学町 2-1-1

TEL. 083-252-0288

FAX. 083-252-8099

<http://www.shimonoseki-cu.ac.jp>

新学長就任挨拶

下関市立大学長 荻野 喜弘

本年4月に下関市立大学長に就任し3カ月が経ちましたが、改めてご挨拶申し上げます。

本学は、「海峡の英知。未来へ そして世界へ」というユニバーシティ・スローガンを掲げ、協働によって共に価値あるものを創り出すという「共創による大学づくり」を目指しています。

このような立場から、本学は、①公共マネジメント学科の新設（平成23年度）、②外国での教育・就業体験の充実、③就業力育成事業の企画（平成22年度より着手）などに取り組んでいます。

①の公共マネジメント学科は、「『みんなのために…』を考える」をテーマに、公共的な諸活動のあり方を、マネジメントの視点から学ぶ新学科です。

②は、人・モノ・知の交流拠点である下関から「未来へ、世界へ」と羽ばたく人材を育成することを目的とするものです。

③の就業力育成事業は、目下文部科学省の「大学生の就業力育成支援事業」に申請中ですが、「共に創り上げる力」の向上を目指す共創力教育の推進などによって「人間力」を練磨するとともに、専門知識の修得を促す専門科目パッケージなどを履修することで、就業力の向上を図り、本学が目的とする有為な人材を育成しようとするものです。

私は、これらも含めて本学の教育と学生生活を通じて、学生諸君が高い志をもって目標に向かってチャレンジし、希望や夢を実現していくことを心より願っています。そしてこのような大学づくりを目指して微力ながら、全力を尽くす所存でございます。



平成22年度 第49回入学式

本年は、開花後も低温の日が続いたため、長いあいだ残存した桜の下で、学年暦の関係から1日早めて4月7日の入学式となった。

中尾友昭下関市長の祝辞に続き、4月1日に就任したばかりの荻野喜弘新学長により、グローバル化の下で今こそ新たな知の創造が求められており、志を立てて高い目標にチャレンジしようという内容の祝辞が述べられた。続いて関谷博下関市議会議長、吉川英俊下関市立大学後援会長（長秀龍同会顧問代誌）、柴田勝利同窓会長、宮本純也校友会会長から激励の言葉があり、来賓列席者の紹介が行われた。

新入生からは、学部生497名を代表して、国際商学科の三澤夏海さんが、学部留学生を代表して中国の劉彩霞さんが、交換留学生を代表して東義大学の李才一さんが、科目等履修生を代表してトルコのチーデム・アタサヤルさんが、最後に大学院生を代表して国際ビジネスコミュニケーション専攻の森中紘一さんが、それぞれ誓いの言葉を述べた。



とくに社会人として大学院に入学した森中紘一さんからは、東南アジアのラオス史を研究しようとする強い意気込みが語られ、若い新入生への刺激となった。

恒例となっている吹奏楽部の演奏は「Young Man - YMCA-」であり、また応援団の応援歌・エールも行われた。式典後はキャンパス掲示板前でふく鍋が振る舞われ、サークル勧誘も行われた。保護者説明会には大勢の保護者が参加し、説明の後には奨学金や就職関係で長い列ができた。

今年の入学生は、学部学生が経済学科241名、国際商学科256名の計497名（うち外国人留学生20名）、3年次編入生が18名（経済学科12名、国際商学科6名）、特別聴講学生（交換留学生）として韓国東義大学校2名、中国青島大学4名、科目等履修生としてタイ・トルコ・中国から計4名が1年間学ぶ。また、大学院に6名が入学した。

第45回卒業式



肌寒さの残る2010年3月25日、第45回卒業式が本学体育館において挙行された。学生歌「青潮ゆたかに」の斉唱後、経済学部経済学科203名（総代肥中薫梨さん）、同国際商学科235名（総代黒田真貴さん）に卒業証書・学位記が、また大学院経済学研究科8名（総代井上一生さん）に修士学位が授与された。坂本紘二学長から「景気が厳しさを増すなか、耐えて難局を乗り越えてほしい」と激励の言葉があり、中尾友昭市長をはじめ来賓各位からも温かいお祝いの言葉が述べられた。

さらに、学生論文集『赤馬』第3号に優れた論文を寄せた金元美美子さん（国際商学科）に「優秀赤馬賞」が贈呈された。次いで後援会表彰があった後、卒業生を代表して卒業生総代・中村優果さん（国際商学科）、留学生総代・林強さん、大学院総代・劉璋さんから出発（たびだち）の言葉が述べられた。最後に吹奏楽部による「ミス・サイゴン」の演奏、応援団による力強い応援歌とエールが卒業生におくられ閉式となった。



2009年度現代GPシンポジウムが開催されました

教授 土屋 敏夫（現代GP取組責任者）

下関市立大学では、2007年度の文部科学省大学改革推進事業「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」（現代GP）の「テーマ1：地域活性化への貢献（地元型）」に「地域貢献を目的とした共創的学習プログラム－住民参加型『観光・交流・まちづくり』の実践－」が採択され、3年間に渡り活動に取組んでまいりました。

取組の最終報告として、去る2010年2月21日（日）、2009年度下関市立大学現代GPシンポジウム「下関市立大学現代GP取組報告会」を行いました。このシンポジウムは、2009年度現代GPの取組内容を報告するとともに、3年間の現代GPの活動をまとめ、取組の当初の目的をどの程度のレベルで達成し得たのかを検証するための議論の場として実施し

たものです。当日は105名（教職員23名、学生75名、学外7名）の参加があり、活発な意見交換がおこなわれました。

シンポジウムは3部構成で実施されました。第1部では学生と教員によるチューター活動（3、4年の学生が演習科目のサポートをする制度）が報告され、基礎演習を中心としたチューター制度導入の効果と問題点について議論が行われました。第2部では「環境グループ」「観光・交流グループ」「まちづくりグループ」のそれぞれの活動報告と活動に関する意見交換が行われました。地域の連携団体の方にも報告していただき、活動成果をまとめるとともに、今後の地域活動の継続に向けて多くの提案が出されました。第3部の取組推進委員会まとめでは、本取組の目的と3年間の経過を報告し、取組成果についてまとめました。学内外の参加者から本取組の成果と今後の活動に向けた提案が出され、質疑応答においては取組内容のみならず大学教育全般に関する活発な議論が行われました。

2009年度の現代GPの活動については、シンポジウムの発表資料として作成した「下関市立大学現代GP最終報告」およびシンポジウムの内容を収録した「2009年度現代GPシンポジウム」を発行しており、これらの資料は下関市立大学地域共創センターで配布しています。現代GPの取組は2009年度で終了いたしますが、本学の地域活動の取組は今後とも継続してまいります。両資料をご覧いただき、本学の教育研究についてご意見、ご要望をお寄せください。皆様のご意見を参考にさせていただき、現代GPが目指した教職員、学生が一体となった地域活動の発展に向けて努力してまいりたいと思います。今後とも皆さんのご支援をよろしくお願いいたします。



新入留学生35名の歓迎会

今年度、本学に35名の新入留学生（学部生20名、大学院生5名、特別聴講生6名、科目等履修生4名）を迎えました。

4月23日、本学厚生会館1階レストランにおいて、国際交流会ともだち主催の「平成22年度留学生歓迎会」が開催されました。学内外のサポーターの方々や本学学生、教職員など総勢150人が出席し、日舞やビンゴゲームで盛り上がりました。



2010年度入学者実施状況

		学科(定員)		志願者	受験者	合格者	入学者	実質倍率
一般選抜	前期日程	経済学科(60)		224	214	83	63	2.6
		国際商学科(60)		141	128	92	75	1.4
	公立大学 中期日程	経済学科(96)		1715	1227	332	102	3.7
		国際商学科(96)		1236	824	265	106	3.1
推薦入学	全国推薦	経済学科(31)		84	84	32	32	2.6
		国際商学科(31)		72	72	31	31	2.3
	地域推薦	経済学科(33)	A	9	9	9	9	1.0
			B	48	48	25	25	1.9
		国際商学科(33)	A	6	6	6	6	1.0
			B	34	34	28	28	1.2
特別選抜	帰国子女	経済学科(2)		1	1	1	0	1.0
		国際商学科(2)		0	0	0	0	0
	社会人	経済学科(3)		0	0	0	0	0
		国際商学科(3)		0	0	0	0	0
	中国引揚	経済学科(若干名)		0	0	0	0	0
		国際商学科(若干名)		0	0	0	0	0
	留学生	経済学科(若干名)		26	25	14	10	1.8
		国際商学科(若干名)		38	35	15	10	2.3
編入学	経済学科(10)		36	31	13	12	2.4	
	国際商学科(10)		21	17	8	6	2.1	
大学院	経済社会システム専攻(5)		5	5	2	2	2.5	
	国際ビジネスコミュニケーション専攻(5)		9	7	6	4	1.2	

2010年度合格者出身校

北海道	旭川西・帯広柏葉	山 口	岩国・柳井2・下松2・徳山・防府4・防府商業2・山口2・山口中央・宇部・宇部商業・小野田7・厚狭4・田部2・西市・豊浦5・長府3・下関南11・下関工業2・豊北6・大津・萩2・下関商業20・防府西・新南陽2・響4・西京3・下関中等教育4・青嶺3・誠英・慶進2・宇部フロンティア大学付属香川・サビエル・梅光女学院2・早鞆8			
山 形	酒田西		徳 島	城東2・城南4・城北・富岡東3・富岡西3・阿波・脇町5・徳島市立4・城ノ内2・徳島北・生光学園		
茨 城	常総学院		香 川	三本松2・高松商業・坂出5・観音寺第一・高松西6・高松北2・高松桜井3・香川県大手前・尽誠学園・香川誠陵		
栃 木	白鷗大学足利		愛 媛	三島2・西条4・今治西・今治北3・松山東2・松山南5・松山北18・松山商業2・八幡浜2・宇和島東・宇和南・松山中央8・今治東2・宇和島南・済美		
群 馬	館林		高 知	高知追手前4・高知小津・土佐塾		
東 京	創価		福 岡	育徳館2・京都7・小倉南3・小倉商業2・小倉・小倉西4・北九州・戸畑9・若松商業・八幡10・八幡中央2・八幡南2・宗像2・新宮4・城南・明善・久留米5・山門・八女2・田川2・東鷹・嘉穂6・鞍手5・北筑7・春日2・小倉東3・中間2・光陵・青豊・門司大翔館・浮羽究真館・門司学園・敬愛・常磐・東筑紫学園2・九州国際大学付属7・近畿大学附属福岡2・福岡大学附属大濠・筑紫台・筑陽学園・中村学園女子・福岡工業大学附属城東9・福岡舞鶴4・大牟田・祐誠2・八女学院・自由ヶ丘		
神奈川	南・城郷			佐 賀	佐賀北・唐津西・伊万里7・小城4・武雄・鹿島4・鳥栖5・三養基・白石・致遠館・弘学園	
富 山	桜井・高岡西			長 崎	長崎東4・長崎北・佐世保南2・佐世保西13・大村2・口加・川棚・猶興館・五島5・長崎北陽台4・西陵2・長崎南山・長崎日本大学2	
石 川	寺井・鶴来			熊 本	第一・第二2・玉名・鹿本3・宇土・八代・人吉・天草・熊本北・東稜3・熊本マリスト学園・文徳3・専修大学玉名	
福 井	羽水3・敦賀・若狭4・北陸			大 分	杵築2・別府鶴見丘5・大分上野丘2・大分舞鶴7・大分西2・大分鶴崎2・白杵・佐伯鶴城5・竹田4・森・日田8・中津南3・中津北3・安心院・別府羽室台・大分豊府15・三重総合・宇佐5・大分東明	
山 梨	甲府西				宮 崎	高千穂・高鍋・宮崎大宮4・宮崎南・宮崎西3・都城泉ヶ丘・都城西2・宮崎北2・宮崎日本大学・鵬翔3
岐 阜	加納・武義・岐阜女子				鹿 児 島	鹿児島中央2・鹿児島南・指宿・加世田8・伊集院・川内6・出水2・加治木4・志布志・鹿屋・大島3・沖永良部・鹿児島玉龍5・鹿児島商業・武岡台2・樟南6・れいめい・尚志館
静 岡	静岡東2・袋井・加藤学園					沖 縄
愛 知	愛知教育大学附属・安城・西尾東・西春・豊田南・桜花学園・愛知啓成・春日丘			高校卒業程度認定試験0		
三 重	海星・鈴鹿			外国の学校等29		
滋 賀	水口東・河瀬3・玉川2・光泉2					
京 都	桂・加悦谷・峰山・洛西・菟道6・城南菱創					
大 阪	千里・八尾・和泉・高石・開明・履正社・初芝富田林・大阪桐蔭					
兵 庫	御影・県立西宮・柏原・篠山鳳鳴・西脇・社・北条・姫路東4・姫路南・姫路商業・豊岡・宝塚西・相生3・姫路・加古川北・姫路飾西・兵庫県立大学附属・三田祥雲館3・国際・近畿大学附属豊岡					
奈 良	畝傍・一条・天理教校学園					
和歌山	田辺・初芝橋本					
鳥 取	鳥取東2・鳥取西・八頭2・倉吉東4・倉吉西4・米子東・米子西・境・鳥取城北					
島 根	安来2・松江北・松江南8・大東・平田3・出雲4・大田2・浜田2・益田・津和野・松江東3・島根中央					
岡 山	岡山操山3・岡山大安寺5・岡山芳泉4・倉敷青陵5・倉敷天城2・倉敷南5・津山4・玉野2・県立玉島4・笠岡2・西大寺・井原4・高梁・新見・瀬戸6・矢掛・勝山2・岡山一宮9・倉敷古城池11・総社南・岡山城東・就実・明誠学院4・岡山理科大学附属4・岡山学芸館3					
広 島	広島大学附属・広島大学附属福山・広島国泰寺9・広島皆実・海田2・廿日市10・賀茂2・五日市・安古市7・広2・呉三津田・尾道東2・尾道北4・三原・世羅2・福山誠之館11・府中6・大門5・福山明王台2・三次3・舟入3・基町2・福山4・高陽・広島井口2・祇園北・美鈴が丘2・広島・比治山女子・広島国際学院・広島新庄・広島工業大学・呉港・盈進・銀河学院2・近畿大学附属東広島					

平成21年度卒業論文合同報告会を終えて

平成20年度卒業論文合同報告会実行委員会 実行委員長

住田 誠治

有志の先生方によって開催されてきた卒業論文合同報告会を引き継いで、学生が自主開催するようになって7回目になります。2月11日午前10時からB講義棟2室を使用して開催しました。わが道盛ゼミの代々の先輩が深く関わってきた行事だけに緊張して実行委員長を務めました。今年度も参加ゼミの減少を止めることができませんでした。桜木ゼミ9名、道盛ゼミ3名、米田ゼミ1名による全13報告でした。反省頻りです。

卒業論文合同報告会に参加された皆様、ありがとうございます。卒業論文の報告を終えて感じたことは、人に伝えることの難しさです。短い時間で、他人に卒業論文の内容を理解してもらうには、内容をコンパクトにするとともに、分かりやすくなるように工夫しなければなりません。この作業は簡単に思えるかもしれませんが、実際にやってみるとかなり苦労しました。ですが、この作業によって、自分の卒業論文の姿がくっきり見えてきました。私の場合は、問題点ばかり見えてきたのですが、それでも発表して良かったと思っています。

4年生の皆さん、卒業研究の最後を飾って、卒業論文発表会に参加してはどうでしょうか。自分の卒業論文の姿が見えるだけでなく、自分の卒論の出来具合も分かると思います。また、プレゼンテーションの練習にもなるので役に立ちますよ。



各ゼミ卒論発表会の実施状況

教授 金子 肇

本学では、毎年2月に学生主催の卒業論文発表会が開催されています。開催回数も昨年度で7回を数え、本紙でも年度最初の号に発表会の様子が掲載されるようになってきました。ところで、この学生主催による卒論発表会以外にも、各ゼミが単独で、あるいは合同して卒論発表会を開いていることは、学内でも比較的良好に知られていたのですが、その実施状況についてこれまで正確なところが把握されてきませんでした。

今回、初めて調査を実施した結果、12ゼミ145名の学生がゼミ単独あるいは合同の発表会で卒論内容を報告していることが分かりました。この数は把握できた限りのものですが、そこから担当教員の熱心な指導による発表会の盛況ぶりを垣間見ることが出来ます。実施状況の詳細は以下のとおりです。杉浦・松本・森(邦)・横山ゼミ合同(55名)、平池ゼミ(20名)、中嶋・小笠原ゼミ合同(17名)、川本ゼミ(15名)、木村ゼミ(13名)、難波ゼミ(13名)、田中ゼミ(9名)、藪内ゼミ(3名)

サークル
紹介

準硬式野球部

主将 樋爪 達彦(経済学科4年)



私たち準硬式野球部は、選手28名、マネージャー5名の計33名で日々練習に励んでいます。「野球を楽しむ」ということをモットーにしており、試合はもちろん練習中から元気良くプレーしています。また、それと同時に、一人の社会人としての自覚を持つために、礼儀を重んじ、マナーを守ることを徹底しています。

今回、私たちは、平成22年度の春季リーグで優勝し、9月に行われる全日本大学準硬式野球選手権大会に出場することになりました。新チームが発足して以来、「全国大会出場」を目標に練習してきたことが現実となり大変嬉しく思っています。現在のチームは、一人一人が与えられた役割を果たしていく「全員野球」のチームです。全国の舞台でもこのスタイルを貫き、楽しんでプレーしたいと思います。

全国大会出場にあたって、部員一同、多くの方々の期待を感じています。たくさんの人の支えに感謝し、中国地区代表としての誇りを胸に戦ってまいります。

2010年度大学院共同講義

准教授 素川 博司

本年度4月9日から16日の5日間(木曜日を除く)、大学院経済学総論が本大学院担当教員15名により、昨年度に引き続き市民開放講義として開講されました。今回の受講者は院生6名、市民4名でした。

講義内容は、歴史・理論・政策のすべての分野を含み、地域別でも、東アジア経済社会(中国・朝鮮)・日本経済社会・山口県をカバーし、学問分野も経済学・経営学・社会学・言語学・統計学・感性工学と多様です。受講した院生の感想をみると、経済社会を研究するには学際的に多方面から理解する視点が大切だとの印象を、この1週間の集中講義で強くもっていただけたようです。「非常に刺激のかつ有意義な時間」であったとの声も寄せられるなど好評でした。来年度に向けては、各担当教員の講義内容の公開時期をより早め、また受講者の意見も反映させた内容編成を工夫して、院生そして市民の方々の受講を待ちたいと思います。

2009年度「共同自主研究」発表会報告

准教授 平山 也寸志



2009年12月22日(火曜日)の16時30分から18時30分まで、A講義棟122教室にて、学生の共同自主研究発表会が開催された。

共同自主研究は、学生が自らテーマを決めて、共同で調査・研究に取り組むことにより、主体的な学習意欲やコミュニケーション能力などを養うことを狙いとするものである。各グループには、指導教員がつき、教員と相談しながら研究をすすめ、この成果は自発自習科目の履修とみなして単位が認定される(共同自主研究共通シラバス参照)。

従来、この共同自主研究の成果を発表する場がなかったが、2009年度から、発表会が開催されることとなった。

当日、坂本学長(当時)にも冒頭から御出席いただき、開式のご挨拶を頂いた後、各グループは、質疑応答を含めて、15分間の持ち時間で発表に入った。各グループとも興味あるテーマを自主的に選択し、指導教員の下、十分に時間をかけて準備し、趣向を凝らしているだけあって、限られた時間の中ではあったが、発表内容はいずれも素晴らしいものであった。閉会のご挨拶を金子副学部長に頂き、発表会は閉幕した。

今年度もこの共同自主研究発表会は開催される予定である。共同自主研究の開始年度(14年度)からの報告者数、研究題目、指導教員数の推移を見れば、18年度が13グループと目を引くが、その後、右肩上がりという傾向にはない。しかし、昨年度の研究題目、研究発表を見る限り、地道ながら発展を続けているといえる。今年度も既に、共同自主研究の履修登録の受付が始まっている(締め切り:秋学期履修登録締切日10月7日(木))。共同自主研究発表会の更なる発展を祈る。

最後に、昨年度の研究報告題目、報告者、指導教員は以下のとおりである。

1. グリーンツーリズムの問題解決

報告者: 城戸章吾、宮下紗弥、若林佳央理、田村将史、梶井翔太
指導教員: 西戸隆義先生

2. エコツーリズム

報告者: 山見彩希穂、上符紗季、田中快昂、中野友美子、藤崎薫
指導教員: 西戸隆義先生

3. シェイクスピア作「マクベス」における和訳の比較、検討

報告者: 御手洗かな、松野葵
指導教員: 相原信彦先生

4. 下関における、ロケ地観光の可能性

報告者: 地代千晶、嶋本莉子、岩政和葵、坂井麻記
指導教員: 米田昇平先生

5. 地元定着志向の強さの調査

報告者: 廣中健亮、永富有起、石津敦亮
指導教員: 素川博司先生

6. 居酒屋に関するイメージ調査

報告者: 内田充洋、森田敏基、井関貢平、佐古龍太
指導教員: 松本義之先生

7. 精神保健福祉と地域福祉に関する研究

報告者: 高田彩香、下鶴麻理菜、石井友樹、萩野紘未、濱本史子
指導教員: 難波利光先生、田中裕美子先生

東義大学校・下関市立大学両大学による
国際共同シンポジウム

教授 木村 健二

2010年3月30日、釜山広域市・東義大学校国際館において、「超国家経済圏実現のための韓日地域産業協力方案」というテーマで、東義大学校と下関市立大学による国際共同シンポジウムが開催され、学生・教員など50名以上の参加をみた。

東義大学校からは、まずチョ・ソング商経大学長が歓迎のあいさつと主旨説明をし、その後チョン・ソクチャン経済経営研究所長が「釜山ビジョン2020と日韓IT産業交流方案」というテーマで、もっぱら九州地区と釜山とのIT産業の交流の可能性について報告し、ついで商経大学流通管理学科のムン・サニョン助教授が「低価格航空会社の韓日国際線就航による韓日観光市場の活性化」というテーマで、低価格航空会社の参入による両国間の観光交流への波及効果が期待できるという点を報告した。

本学からは、学部長の木村が、友好交流協定20周年にあたって、盛大な共同シンポジウムが開催されたことを感謝する旨のあいさつをし、続いて濱田英嗣教授(大学院研究科長)が「地域ブランド取り組みの評価と課題-下関市を中心に」というテーマで、ブランド化の成功例と失敗例を取り上げ、現在抱えている問題点を整理して理論化する必要があると報告し、ついで中川圭輔講師が「釜山と下関の産業交流-下関市の産業の現状-」というテーマで、後退局面にある下関の活路を釜山との文化面を含めた産業交流に求めたい旨の報告をした。

続く討論では、濱田教授への質問が殺到したが、成長・競争をめざす韓国と共創や文化を重視する日本というように、両国間の経済発展段階の相違や中央政府あるいは自治体に期待する中身の違いなどが浮きぼりになり、議論をかみあわせるのが難しいことが明確になった。しかしそうした違いを認識し、かつ事前に共通の論点をしぼりこんでいけば、今後とも経済・経営関連ばかりでなく、より幅広い分野で有意義な議論が展開できるのではないかとこの共通認識を得ることができた。



退任挨拶

■精一杯の15年間でした

前学長 坂本 紘二

15年間精一杯勤めました。最後の3年間は法人化最初の学長でした。公募に応じていた私の採用が決定された15年前の教授会がちょうど私の満50歳の誕生日でしたから、大事な節目にしようと思ひ、張り切って赴任したことを思い出します。それまでの22年間は九州大学工学部土木工学科の助手でした。一向に浮かばれず「万年助手」と言われていました。講義を持たされず、学科の会議にも参加権がなく、既成の学間に異を唱えるような反公害・環境保全の地域活動に熱心で、反抗心旺盛なため指導教授からも締め付けを受けていましたから、市大では余計に開放的な気分を味わっていました。

新学部や新学科、さんぶんけんサロン(後の地域共創サロン)、共同自主研究、エコキャンパスの取組、市大みらいフォーラム、そして、法人化後の鯨資料室やふく資料室など、じつにさまざま提案してきました。下関市や山口県などの、景観・環境・廃棄物問題・まちづくり・河川の取組など様々な審議会や委員会の委員、そして、「しものせき環境みらい館」を運営するNPOの理事長も務めてきました。はちきれんばかりの活動だったように振り返ることができます。だから、3月の最後の2週間の思い出の詰まった研究室の片づけはホントに大変でした。

その分、みなさんには精一杯迷惑をかけていたのだとも思ひ起こされて、今さらながら恐縮しつつ感謝申し上げる次第です。



■退職にあたって

山本 興治

退職の前月に、本学36年間で自分が公表したものを整理したら、論文類(翻訳や書評等を含む)63本だった。書き流した類はなく、1行書くのにつっかかり苦吟したことが思い出される。1985年出版の処女本は自分自身のテーマで、70年代の1企業合理化争議を扱った。出版後に当該労使双方から「わが社をネタに教授になった」と揶揄されたことも懐かしい。拙著で大原社研の『社会・労働運動大年表』に名を留めた、と思っている。

80年代後半は造船不況合理化、90年代前半は高齢者雇用開発、2000年代は国際観光振興等と、大学(間)や山口県、労働省等の調査諸プロジェクトに参画した。器用でないから2足の草鞋がはけず、そのテーマにのめり込んで他人のテーマに振り回される結果となった。が、悔いはない。退職前の私的な祝宴で先輩教授が「山本は調査マンだ」と評したが、的を射ている。その経験のなかで、自然と演繹人間から帰納人間に転

身していた。

頼まれ仕事は時を選ばない。私の場合、90年代初から10年ほど大学行政の中核にいて、同時に調査研究が特に多忙な時だった。社会的な仕事も重なって音をあげそうな時は「失敗を時間のせいにはしない」、「失敗は無敗に勝る」と、心底で教訓化した。

紙幅がないが先生方に一言。「大学の主人公は学生だ」とか「大学の構成は教員と職員、学生の3者並存だ」とは、いかにも美辞麗句で過剰なステーキホルダー論だと思う。世情「最後の責任は教員がとられますよ」と言いたい。制度をいじっても大学教員の使命は不変だと、肝に銘じて大学創りに励んでほしい。



※哲学担当の山戸輝雄教授は本年3月31日をもって定年退職されました。

自著を語る

『下関フグのブランド経済学I』～学際的研究を語る

教授 濱田英嗣

ご存知のとおり、下関市はフグで有名な町です。そのお膝元にある下関市立大学として、地域貢献の一環として下関がなぜフグで有名になったのか、というテーマに取り組みました。とくに、下関フグは地域ブランドとして確立していますので、ブランド形成という観点からこの解明にあたりました。

ブランド形成という観点からの作業は、水産経済学だけでは全貌が明らかにはなりません。ミクロ経済、マクロ経済、産業組織論、地域経済論さらに心理学や消費者行動論と学際的な分析が必要です。つまり、下関のフグを色々な専門領域から分析するとともに、下関市の地勢・風土や歴史さらに地域経済や出荷先である東京や大阪市場でのフグに対する消費者心理などを総合的に組み入れながら作業をしました。この点で、本書は専門領域が異なる複数の市立大学教員の共同成果です。

下関がなぜフグの地域ブランド化に成功したのか、それは本を読んで理解頂くとして、作業を進める中でフグ以外の地域ブランド化に成功する共通の条件も浮かび上がってきました。つまり、製品差別化がブランドのベースであることはいまでもありませんが、さらに①ブランド形成は1年2年で絶対にできないこと、②関係する会社が多数存在し、彼らが仕事上ではお互い厳しく競争し、切磋琢磨の関係にあること、③テレビや新聞などマスコミをうまく活用し、そのブランドをアピールするというパブリシティ戦略に長けていたこと、などなどで



す。概ね、ブランド・マーケティング戦略が実施されていたのです。

もう一つ、本書作成の作業過程でわかったことは、他地域で食べるフグよりも下関の料理屋で食べるフグが美味しいということです。さすがに、フグの本場ということでフグの料理技術が他地域よりも優れています。下関では処理したフグを一定時間寝かせて「うま味成分が十分出る段階で調理されています。むろん、フグは各自がポケット



マネーで味わいましたが、一般の方よりも少しフグの味がわかった気がします。フグを食べる際は、本書で各章を執筆分担された先生方に情報を収集されると思います。

『下関フグのブランド経済学1』
濱田英嗣編著 筑波書房 2009年

新任教員挨拶

特任教員 盧永璘



みなさんこんにちは！

私は、中国の北京大学中国語文学部教授盧永璘と申します。今年の4月から一年間、下関市立大学で中国語を担当することになりました。

北京大学で、私が長年研究、教育してきた分野は中国古典文芸理論であり、中国伝統美学とも呼びます。具体的に言うと、主に研究と講義における文学理論、特に、詩歌理論で、さらには書道理論にまで及びます。北京大学の学生と大学院生に開講していた授業は《中国歴代文論選講》、《中国文学理論批評史》、《中国詩歌美学研究》、《中国書道美学研究》、《文心雕龍研究》、《詩品研究》、《情緒理論研究》等です。その他に、中国語文学部の外国人留学生に対して《中国古代詩歌》と《漢字書道芸術》を教えていました。

私が下関市立大学で担当する科目は中国語です。二年生から四年生の学生に、様々な教科書を使って教えています。下関市立大学の学生はとても賢く、勤勉です。なかには中国語と中国文化が大好きな学生もあり、このような学生は中国語をマスターするのがとても速いです。

下関市立大学でみなさんと一緒に学ぶことができ、とてもうれしく思っています。

この一年間、共に成長していきましょう！

特任教員 王晓光



みなさんこんにちは！

私は青島大学から派遣されました王晓光と申します。今年の4月から一年間、下関市立大学の特任教員として中国語の授業を担当させていただきます。

私は山東大学出身で、専門は、修士課程、博士課程共に古代文学です。私が現在携わっている仕事は対外漢語教育です。私はこの仕事と学生のみなさんが大好きです。中国語教育を通して、世界中の学生に中国の伝統文化を紹介し、みなさんが中国語を話せるようになること、更に中国文化を知ってくれることが私の喜びです。

下関はとてもきれいで落ち着いた街です。そして、私が驚いたことは下関の方々がとても親切だということです。幸運なことに、大学内外で、沢山の方にお世話になっています。本当に感謝しています。

下関市立大学の学生はとても素直で、中国に行ったことのない学生も沢山いますが、中国に対してとても興味を持っています。中国語を学ぶことは中国を理解する最も良い方法です。中国と日本は昔から非常に密接な交流があります。言語は国と国、人と人とを結ぶ架け橋です。この架け橋を使って、更に交流を深めていきましょう。

中国語は少し難しいですが、一緒に頑張っていきましょう！私は、みなさんが必ず美しい中国語を話せるようになると思います。加油！

■韓国木浦大学校と協定締結

本学は、5月27日、かねてから交渉を進めていた韓国国立大学の木浦大学校と同校本部において、教育・研究連携の交流協定を締結しました。

木浦大学校は6学部7大学院、学生数約1万2千人の全羅南道における教育・研究拠点で、本学は教育科目編成が似ている同大経営学部を中心に実質的に交流する。予定されている内容は、学部において「短期語学研修」、大学院では「大学院生の相互受け入れ」、「日本事情などの遠隔講義」、研究交流として「日韓のブランド比較研究」などであり、双方で今年度中に詳細をつめます。



■コンソーシアム関門平成22年度開講科目

コーディネート科目【関門学】

科目名	提供大学
講義期間	会場(※1)
関門の自然環境とそのエネルギー	九州共立大
8/30~9/3 10:40~16:10	A
関門地域の歴史・地理・交流	下関市立大
8/30~9/3 10:40~16:10	B
関門地域の文学	梅光学院大
9/6~9/10 10:40~16:10	A
近代関門地域の産業発展	九州国際大
9/6~9/10 10:40~16:10	A
関門の近代化遺産	九州国際大
9/13~9/17 10:40~16:10	B

大学提供科目【現代の教養】

ESD(持続可能な開発のための教育)入門	西日本工業大
9/13~9/17 10:40~16:10	A
メディアの現場(NHK・朝日新聞社提供)(※2)	北九州市立大
9/18~12/25(毎週土曜日)10:40~12:10	C
核兵器の記憶 広島、小倉、長崎をつなぐもの	北九州市立大
9/18~12/25(毎週土曜日)13:00~14:30	C

※1 会場 A：西日本工業大学小倉キャンパス
会場 B：しものせき市民活動センター
会場 C：北九州市立大学小倉サテライトキャンパス

※2 「メディアの現場」のみ2年生以上対象、ほかは1年生以上

■ 22年度予算

(単位:百万円)

区 分		金 額
収入	運営費交付金	135
	授業料等	1,054
	入学金	123
	入学検定料等	58
	事業収入等	24
	寄附金	3
	受託研究等	13
計		1,410
支出	一般管理費	260
	人件費	936
	教育経費	121
	研究経費	46
	教育支援経費 (図書館)	40
	受託事業費	7
計		1,410

行事記録(2010年1月～6月)

- 1月 16日(土) 大学入試センター試験(～17)
23日(土) 特別選抜入試
- 2月 3日(水) 秋学期定期試験開始(～12)
25日(木) 一般選抜前期日程入試
- 3月 8日(月) 一般選抜中期日程入試
13日(土) 大学院(二次)入試
25日(木) 卒業式
- 4月 7日(水) 入学式
12日(月) 春学期授業開始
23日(金) 留学生歓迎会
- 5月 19日(水) 第1回就職ガイダンス
- 6月 1日(火) 開学記念日
24日(木) 入試説明会

年間行事予定(2010年7月～2011年3月)

- 7月 7日(水) 世界の厨房から
11日(日) オープンキャンパス
16日(金) 第2回就職ガイダンス
24日(土) オープンキャンパス
- 8月 2日(月) 春学期定期試験開始(～10)
10日(火) クリーンキャンパスデー
12日(木) 夏季休業(～9/26)
- 9月 11日(土) 大学院入試
27日(月) 秋学期授業開始
30日(木) 平成22年度春学期卒業式
- 10月 22日(金) 大学祭(前夜祭)(～25)
- 11月 8日(月) 第3回就職ガイダンス
16日(火) 1・2年生のための就職入門ガイダンス
20日(土) 推薦入学・特別選抜・編入学入試
- 12月 17日(金) 第4回就職ガイダンス
24日(金) 冬季休業開始(～1/5)
- 1月 15日(土) 大学入試センター試験(～16)
22日(土) 特別選抜入試
- 2月 2日(水) 秋学期定期試験開始(～10)
25日(金) 一般選抜前期日程入試
- 3月 8日(火) 一般選抜中期日程入試
25日(金) 卒業式

大学を体験しよう!!

下関市立大学オープンキャンパス 2010

開催日時

7月11日(日)、24日(土)

10:00～15:00(受付9:30～随時)

全体説明 B講義棟233教室

大学紹介:本学の特徴などを紹介します。

入試説明:今年度入試の概況、来年度入試の概要を説明します。

就職状況:就職状況やサポート体制を解説します。

模擬講義 B講義棟233・223教室

11日

経済学科:「砂糖と紅茶の世界史」高田実教授

国際商学科:「中国経済の発展と日本」飯塚靖教授

公共マネジメント学科:「公共マネジメント入門」川野祐二准教授

24日

経済学科:「マクロ経済学の誕生」素川博司准教授

国際商学科:「国際経済と国際金融の現状」西戸隆義准教授

公共マネジメント学科:「公共マネジメント入門」川野祐二准教授

大学語学入門

会話の基本レッスンや海外の研修先の紹介などを行います。

大学英語入門 224番教室 ポール・コレット特任教員

中国語入門 225番教室 武井満幹講師(11日)

浅野雅樹講師(24日)

韓国語入門 226番教室 李亮特任教員

個別相談 B講義棟2階

個別ブースにて、入試や大学生活、就職などに答えます。

市大生と語ろう 厚生会館

サークル活動や勉強のことなど、在学生の生の声が聞けます。

学内施設ツアー

在校生とおしゃべりをしながら、校内を散策しましょう。

学食体験ランチタイム

学生食堂でランチを味わえます(無料)。

図書館ツアー

専門職員が、日頃は目にする事のない閉架書庫にもご案内します。

送迎バス運行

JR新下関駅(東口)・幡生駅から無料送迎バスが出ます。

11日、24日、両駅ともに、時間は、9:15と9:45です。

